



Niigata Association of Nursing Care Research

# ニュースレター

第 6 号

## 第 5 回学術集会在開催されました！ テーマ：家族と共にいのちを支えるケア

### 第 5 回学術集会长を終えて

学術集会长 井川 富美子

平成 25 年 10 月 19 日 (土)、第 5 回学術集会是 287 名の参加をいただき、盛会に開催することができました。看護学校 2 校から学生の参加もあり、活気あふれる学術集会となりました。また、新潟県看護協会会長佐藤たづ子様よりご臨席いただき、看護への熱い思いのこもったご祝辞を頂戴しました。

今回のメインテーマは「家族と共にいのちを支えるケア」でした。住み慣れた在宅への移行が進められている現在、患者がどう生きたいかを支える看護が重要になります。シンポジウムのテーマは「その人らしく、いのちを輝かせるケアとは」として 4 人のシンポジストの皆さんから、それぞれの立場での患者とその家族を支えるケアについてお話をいただきました。

口演は 7 題、示説は 17 題の発表があり、この学会にふさわしく、看護職以外からの発表もありました。

学術集会終了後、会場出口で参加者の皆さまから「良い会だった」という言葉を聞くことができ、安堵いたしました。

この会の開催にあたり、会員の皆様、協力員の皆様をはじめ多くの関係者皆様のご協力・ご支援をいただいたことに深く感謝いたします。



### 特別講演

「どう生きたいかを支える、つなぐ看護」  
—在宅療養移行支援を体系化する—

講師：在宅ケア移行支援研究所  
宇都宮宏子オフィス

宇都宮 宏子 先生

座長 井川 富美子 (新潟市民病院)

特別講演の講師はメインテーマにふさわしく、在宅ケア移行支援研究所所長の宇都宮宏子先生から「どう生きたいかを支える つなぐ看護—在宅療養移行支援を体系化する—」というテーマでご講演いただきました。先生は現在日本各地で在宅移行を組織化し、看護職を教育する活動にご活躍です。先生は病院の退院支援に従事された経験から、入院医療から在宅への移行支援マネジメントの必要性を語られました。そして退院支援・退院調整の 3 段階のステップに沿って、病院から地域への移行期のプロセスを事例をあげて具体的に語っていただきました。

今後ますます在宅移行が重要となり、地域包括ケアシステムづくりが進む時代に、看護は職種や組織を超えて、つなぐ・支えることができる。患者を生活者、人生を生きる人としてとらえ、どんな暮らしを望んでいるのか、そのために何が必要かをアセスメントし支援することで、暮らしの場に帰そうというお話でした。その根底には患者の「意思決定支援」と「自立(律)支援」があり、私たち看護職は、患者がどう生きたいかを支え「一歩前に行く道案内」をする役割があるという講師の言葉に、途切れることなく看護をつなぐことの重要性を改めて感じました。



## シンポジウム 「その人らしく、生命を輝かせるケアとは」

座長 本間 美知子  
(新潟青陵大学短期大学部)

私は、新潟看護ケア研究学会があることを、前の介護福祉施設の職場にも案内が来ていたので名前だけは知っていました。まさか私にシンポジウムの座長役が回ってくるとは思っていませんでした。しかし、新潟県看護協会で看護師職能Ⅱである、介護福祉施設、在宅関連の職能委員長をしている関係上、かつ世の中の医療体制が「病院完結型」から「地域完結型」に変化しつつある今日、やはり職能団体としての意義と役割を少しでも皆様に理解していただける良い機会ではないかと考えて座長をさせて頂きました。メインテーマである、家族と共いのちを支えるケア。「その人らしく、命を輝かせるケア」と題して、病院看護師、訪問看護師、地域保健師、緩和ケア病棟看護師の 4 氏の皆様から、現場ならではのリアルで貴重なご講演を頂き、また会場からも多くの質疑等があり、何とか無事座長役を終えることができました。今後も益々新潟看護ケア研究学会が発展し多くの看護職の方々にとっても気軽に地域の情報発信の場になることを願い、心から応援しています。



### ～シンポジスト～

地域包括ケアの実現に向けて、病院外来看護師の立場から

病院看護師の立場 田中 千鶴子 (新潟臨港病院)

新潟臨港病院は、病床数 199 床 (内療養病床 49 床を含む) のケアミックス病院です。

チーム医療として、多職種で連携しながら、一人の患者により良い医療を提供しようと様々に取り組んでいます。

外来看護師もチームの一員として役割を担わなければなりません。チーム医療の中で、看護師が果たすべき役割は、療養上の患者問題を患者の生活上の

問題として、他の職種に理解してもらい、具体的にいつ誰が何をどう援助するのかを明らかにすることだと考えています。外来看護師の役割は、退院支援の評価を行い、疾病を抱えながら生活する通院患者が出来るだけ、安心して、安定した生活を送れるための関わりを実践する事だと思います。

現状の課題は、退院後の評価をするために、入院中に提供された看護を把握し、退院に向けて、誰に何が伝えられたかを確認すること、さらに、在宅で利用しているサービスを把握し、必要な連携を取れるようにすることと考えています。

病院に通院している患者は医療依存度が高いケースが多く、サービス担当者が不安に思うこともあると思います。サービス担当者会議に病院看護師が参加し、病状・治療方針・生活上の注意点などを関係者に伝えることで、より理解しあい、悪化防止にもつながります。患者に安心して利用してもらうためにも、サービス利用中の体調の変化に対する対応なども打ち合わせておいたほうがよいと思います。

病院の看護師とサービス提供者側の看護師が直接話し合うことで、今起きている状況が理解でき、問題解決が早い場合もあります。もっと、地域で活動している看護師と病院看護師が連携できる環境を作っていきたいと考えています。

これからは、患者や家族の安心と安定した療養生活を支援するために、看・看連携を実現させたいと考えています。それが、これからの地域包括ケアを支える力になると思います。

訪問看護って楽しいよ!!

一介護する人,される人,おまけに看護師も輝ける?!  
訪問看護師の立場 若杉 トヨ子

(すなやま訪問看護ステーション)

訪問看護にたずさわって、10 年が経ち、訪問看護の楽しさに魅了されています。

訪問看護を通して学んだことや、考えさせられたことは以下の通りです。

- 1) 利用者の生き様、介護者の考えは多種多様です。医療従事者の判断が決して正しいとは限りません。利用者とのそれぞれの思いにじっくりと耳を傾け、在宅に関わる専門職の意見に耳を傾け、みんなで知恵をしぼって考えていくことが大切です。
- 2) 百聞は一見にしかずです。最初は介護力が不足していると思えた介護者も訪問看護師と一緒にケアを行うことで介護力はどんどん向上していきることがあります。
- 3) 看護師の笑顔、手のぬくもり、言葉かけ、特に言葉の力が利用者、介護者の心を癒し、時に身体的に

も良い影響を及ぼすことがあります。

4) 常識、マニュアルにとらわれず、臨機応変に対応できる心の柔軟さが必要となってきます。自分の考えを押し付けず、その人、その家族のオリジナルの介護を支えていくことが大切です。

5) 利用者も介護者もそして自分自身も、笑顔で命を輝かせるために生きることの大切さを訪問看護を通して感じることができます。現在認知症の利用者や、意識レベルが低下して会話が出来ない利用者もその人の生き様を聴いたり、介護者の介護に対する思いを聴かせていただく介護する人、される人に対する尊敬の気持ちが芽生え、その人たちに出会えた喜びを感じることが出来ます。

6) どんなに空調が管理され、清潔で栄養が取れる施設よりも、不便でも居心地のよいと感じる自分の居場所にいることが、場合によってはしあわせなのだと感じることもあります。

以上のように、訪問看護を通して、いろんなことを感じさせてもらっています。

訪問看護や、在宅ケアに対して「大変」「介護者が疲弊している」「辛い」などとマイナスイメージを持っている人に声を大にして伝えたいです。

「訪問看護って楽しいよ!、まずは百聞は一見にしかずだから、家での利用者、介護者を見に行ってみて、病院では見せなかった笑顔、表情、態度、考え方など今まで感じられなかったこと、見えなかったことが見えてくるよ」と。

### 地域包括ケアは顔の見える関係から

#### ～互いの立場を理解して始まる「つながる」ケア～ 地域の保健師の立場 飯岡 裕子

(阿賀町地域包括支援センター)

地域の保健師が住民とともにいのちを支え、輝かせるケアとは、なにか?それは、対象者をとりまく家族や地域の状況を踏まえたうえで、本人の生活を支える関わりを行うことだと思います。

現在、私は地域包括支援センターに所属しているため介護を取り巻く『生活』に関わります。介護という今までと異なる状況を本人の生活の質を保ちつつどう調和させるかが課題です。その際、専門職の理想を押し付けすぎないこともポイントと思います。

今回、肝臓がんの方の事例をとおして、看護職が地域でどのような関わりをしたかを発表しました。

この事例で、包括に所属する私は介護と医療の橋渡しを行い、保健分野担当の保健師は、声かけによる見守りと様々な手続きの支援を行いました。介護サービススタッフには、訪問看護師が中心となり病状への対応を何回も話し合いました。

こういった事例への細かな対応ができたのも、顔の見える関係が築けており、お互いの役割が見えていたことが大きなポイントです。また、本人のニーズに対し「自分の立場で何ができるか」をお互いが考えたからこそ、いい支援に繋がることができました。

地域包括ケアは、「住み慣れた地域で元気に楽しく安心して暮す」ための手段ですが、そのためには健康・疾病管理に関わる看護職が地域を診ることが欠かせません。

今後とも様々な方と協力し、1日でも長く住民が住み慣れた地域で暮せるように支援していきたいと思えます。



#### その人らしく、命(いのち)を輝かせるケアとは 緩和ケア病棟看護師の立場 多賀 裕美 (長岡西病院)

長岡西病院ビハーラ病棟は、1993年4月に全国で9番目の緩和ケア病棟として誕生した。緩和ケア病棟として日本ホスピス緩和ケア協会の基準を基に医療やケアを行っている。さらに、ビハーラ病棟は、仏教を母体としているため、仏堂があり仏像が安置されている、僧侶が常勤している、という大きな特徴がある。その中で医療者だけではなく、僧侶も含めたボランティアと共にケアを行っている。実際のケアを事例にて紹介する。

〔事例紹介〕A氏 60歳代 女性 左乳癌 肺転移 入院当初は日常生活の依存度が高く、患者の思いを尊重しながら医療行為を最小限にし、人としての関わりを大切にしながらケアを行った。その後、看護師から指導的な関わりをした訳ではないのに、日常生活が自立に向かった。その間は、患者の迷いや不安に寄り添い、共に過ごすことを大切にした。すると日常生活は自立し、その生活を尊重し見守った。

ケアを振り返ると、ビハーラ病棟の理念にも含まれている本人の願いを軸とする、見守るということを大切にしてA氏と関わったことで、スタッフが寄り添い見守られている安心感があったと考えられる。

また、他にも家族や友人の支え、退院や社会復帰などの希望や目標があったことで、自分らしさを取り戻し、輝くことができたと考えられる。

緩和ケア病棟でのケアは、身体的・精神的苦痛の緩和はもちろんだが、寄り添い・見守るケア、願いを軸としたケア、人と人とのつながりを大切にしたい関わりが重要である。

しかし、願い（ニーズ）がはっきりしない患者も多い。ケアだけではなく、治療方針や療養の場を決める際にも本人の願いや思いは重要である。今後、身近な人と死に方＝生き方を考え、話し合いができるようになることを期待している。

## 口演発表

### 口演発表の座長を終えて

座長 高橋 恒子（新潟県立新発田病院）

今回、始めて新潟看護ケア研究学会に参加させて頂きました。玄関で、先生方、大学の学生さんが準備万端で迎えてくれました。

第5回学術集会のテーマは、「家族と共いのちを支えるケア」ということで7題の口演発表がありました。新潟大学医学部保健学科の齋藤智子先生に助けられながら無事に終了することができました。どの発表も、対象の状況に応じたケアが展開された発表でした。「どうしたらもっと良いか」と抑制しない方法やチューブ栄養の注入内容、退院後の不安軽減につながるような指導など、よりよい看護ケアに取り組んだ成果を発表して下さいました。

発表を聞きながら、当院ではどうなのかな・・・といくつも思いが巡りました。また、新潟県栄養士会の在宅栄養ケア活動の発表など、先駆的な取り組みが紹介されました。今後、ますます職種間、施設や地域との連携が鍵であり、繋いでいく体制が重要であることを実感いたしました。今後も、このような場で、情報交換できることは、私たち一人一人の看護に対する姿勢や感性を呼び起こさせ、元気にさせてくれる機会となると思います。一日ありがとうございました。皆さん大変学習熱心で、看護の力を感じさせて頂いた1日でした。

### ～口演発表を終えて～

#### 在宅栄養ケア推進と私

牧野 令子（新潟県栄養士会）

在宅栄養ケア推進事業も二年目、今ようやく在宅栄養ケア推進に向け一歩踏み出したはずなのに、ふと、様々な課題を前に、漠然とした果てしないものに立ち向かっているような錯覚に陥ります。そんな

迷いの途上、今回の新潟看護ケア研究学会で宇都宮宏子先生にお会いしました。講演を拝聴し、生きること、生活することの意味について触発されました。宇都宮先生を突き動かしている熱い思いの中に、今、私たちが抱えている在宅ケアへの迷いを払拭する答えがあると感じました。この答え探しは在宅ケアの根源的な方向性の源であると同時に、自分自身の生き方を問うことでもありました。この先、どのような生き方をしたいのか、どこでどのような死に方をしたいのか、きちんと問いかけ、真摯に人の思いと向き合う姿勢が求められていることに気付かされました。私自身、忙しいことを理由にこの問題から逃避し続けて来ました。ふと夜半に目が覚め、病院の死の床で、すぎるような目つきで「家に帰りたい」と訴えた父のことが蘇り切れない思いに駆られるので



す。

## 示説発表

### 示説発表の座長を終えて

座長 河内 学（黒川病院）

示説発表の打合せの段階で、発表者が卒後1年または2年の方もいると知ったので、緊張せず発表できるように、座長自らが固くならないよう進行しようと臨んだが、全くの杞憂だった。全ての発表及び質疑の応答に対して発表者のプレゼンテーション能力は高く、研究における自己効力感を発しているような感覚を肌で感じながら発表の場にいた。活き活きと発表している姿は頼もしさを感じた。

発表は、多職種連携、退院調整、患者援助、患者・看護師関係、母親のQOL等幅広いものであった。臨床の場で感じ取った題材を研究という手段で紐解いて、看護実践の場で活かされるような発表が多かったように思う。実践の場でヒントになるものや気づきになる質疑も多かったようである。やらされる研究から自己のため、最良のケアを追求するためにやる研究へと流れが変わってきているのか。

最後に、腕時計が故障した際に、さりげなくお声掛けくださったB群座長の竹村眞理先生の優しさに感謝いたします。



～示説発表を終えて～

平田 憲子（新潟大学医歯学総合病院）

今回、発表させて頂きありがとうございました。学術集会のテーマが「家族と共いのちを支えるケア」でしたが、リラクゼーションや病院での調査内容など様々な研究が発表され、開けた研究会のように思えました。

示説発表は初めてで、私の研究はとにかく図形や文字数が多かったため、スライド 10 枚程の用紙にまとめることに苦労しました。他の方が 1 枚の大きな用紙に自由に構成していたのを見て、見せ方にも様々な方法があるのだと学ばされました。

発表時は緊張で間違えることや時間を超過してしまうことがありました。それでも、最後まで皆さんに発表を聞いて頂いて、話し通せたことに安心しました。また、発表内容が大学の卒業研究で調査したものである為、懐かしく恥ずかしい思いがありました。多くの方に見て頂いて研究した甲斐があったと思えます。公式での発表は、今回が初めてで、とても貴重な体験でした。ありがとうございました。

## 参加者の声

### 第 5 回学術集会に参加して

篠原 かおり（信楽園病院）

今回のテーマは「家族と共いのちを支えるケア」であり私達は退院支援・調整における看護師の意識行動変容に向けた取り組みを行いました。研究に取り組むうちに、患者さんがその人らしく生きるために看護師の役割は何か、患者さんの立場になり看護ケアができていないか、他職種と連携ができていないかと自分自身の看護ケアを振り返ることができました。

宇都宮先生による特別講演や様々な立場の看護職の方々によるシンポジウムを拝聴して、改めて「つなぐ看護」を大切にしていきたいと思いました。私達の研究はテーマに関連していたので宇都宮先生の

講演はとても興味深いものがありました。そして発表後では、宇都宮先生からコメントを頂くことができて嬉しく思いました。

最後に指導して下さいました丹野かほる先生に感謝致します。先生に指導して頂き無事に発表することができました。学術集会に参加して、職場は違っても同じ看護師として働いている皆様からの刺激を受けました。自分自身の勉強にもなり、明日からまた頑張ろうと思いました。

### 第 5 回学術集会 参加して

竹井ひかり（新潟病院附属看護学校 3 年）

今回学術集会に参加させていただき、病院看護師、訪問看護師、保健師など様々な職種の方から、学校の授業では学ぶことができない貴重な話をお聞きして、患者さん、対象者さんの思いを知ることが大切であるのだと改めて実感しました。病気や老いと向き合い、どう生きるのかは患者さん自身が決めることですが、看護師は、意思決定を支援する大きな役割があると学びました。

これから病院内だけではなく、職種、組織を越えて地域へとつなぎ、支えていくことが重要なのだと感じました。

看護師は患者さんと一番近くにいる医療従事者であるからこそ、気付く点が多くあるので、その気付いた点の学びを深めるためにも、研究を行って分析することは大事になってくるのだと感じました。今後、臨床の場で困ったことがあったら、先行研究を参考に現実の問題に対処できるような看護師になりたいと感じました。



**第 5 回学術集会（平成 25 年 10 月 19 日開催） アンケート結果**

学術集会参加者は 287 人、アンケート回答者 207 人、回収率 72%であった。昨年度より会員・非会員の参加が 72 人増加しており、今回の学術集会への関心の高さがうかがえる。当日は、各会場に最後まで多くの参加者が見られた。

プログラム全体・特別講演・シンポジウム・演題発表について「とてもよい」「よい」の評価が多く、概ね良好な結果であった。特別講演は「病院の役割とこれからの退院支援を支える重要性がわかった」「在宅療養移行について連携のポイントなど分かりやすかった」「看護師の役割を再認識させられた」「看護の考え方が変わった」などの感想が寄せられた。「元気がもたらえた」「パワフルで聴いていてすっきりした」「モチベーションが上がった」などの感想もあった。シンポジウムは、「人生の様々なステージで命を支えるケアを感じることができた」「いろいろな立場・職種の発表から、異なる視点の学びが多かった」「地域の人と協力することで、在宅での生活が可能であるとわかったので、取り組んでいきたい」等の記載があった。他に「がんばれそうです」や「将来訪問看護師になりたい」というものもあり、今現在の取り組みから、将来につなげていこうとする内容もあった。演題発表は「栄養士の発表があり興味深かった」「各病院での取り組みを知ることができ、新たな発見があった」「職場の問題のアプローチについて考えるきっかけになった」等があった。示説については、聞こえにくい等の会場の環境調整が必要であるとの意見があった。

全体の感想は「患者の生活を支えるのは様々な職種であり、多職種参加の学会は興味深かった」「同じ看護職であってもおかれた環境によって考え方・理解が違ふことが多く、目標を共有することの大切さを実感した」と日々のチーム医療・看護につながる内容がみられた。学術集会の運営では、参加費納入の手続き、当日の受付の混雑への対応についての意見と、会場の室温調整の必要性や空調による騒音などの環境調整の課題が指摘された。

(全回答者数 207)

| 質問項目    | とてもよい      | よい         | より工夫が必要である | 参加していない・記載なし |
|---------|------------|------------|------------|--------------|
| プログラム全体 | 86(41.5%)  | 112(54.1%) | 6(2.9%)    | 3(1.4%)      |
| 特別講演    | 160(77.3%) | 43(20.8%)  | 0(0.0%)    | 4(1.9%)      |
| シンポジウム  | 95(45.9%)  | 98(47.3%)  | 2(1.0%)    | 12(5.8%)     |
| 口演発表    | 51(24.6%)  | 121(58.5%) | 10(4.8%)   | 25(12.1%)    |
| 示説発表    | 38(18.4%)  | 94(45.4%)  | 10(4.8%)   | 65(31.4%)    |

**～事務局よりのお知らせ～**

**1. 「第 6 回学術集会」の郵送について**

県内全ての病院、看護系大学・専門学校、訪問看護ステーション、保健所には郵送しております。配属部署にない場合は病院や施設の看護管理者にお問い合わせ下さい。

**2. 学会ホームページについて**

ホームページに学術集会関連情報を掲載しています。また、学会等の資料、入会用紙もダウンロード可能です。ご入会をお待ちしております。HP : <http://www.clg.niigata-u.ac.jp/~n-nursing-care/>

**第 6 回学術集会のご案内** 日時：平成 26 年 10 月 18 日（土） 会場：新潟大学医学部保健学科

**テーマ：地域の力をケアに活かす**

学術集会長 小林 恵子（新潟大学大学院保健学研究科教授）

特別講演：い・き・る支援

講師 藤原 茂氏（社会福祉法人夢のみずうみ村理事長）

シンポジウム：地域の力をケアに活かすために—私たちのチャレンジ—

編集後記

第 5 回学術集会の特別講演では、座席が足りなくなるほどの盛況振りで、参加者の関心の高さが伺えました。1 年に 1 回でも身近な場所で、先駆的なお話に刺激を受けられるのもいいものですね。また来年を楽しみにしています。 広報担当 N

新潟看護ケア研究学会 事務局

〒951-8518 新潟市中央区旭町通 2-746

新潟大学医学部保健学科内 関井研究室

Fax : 025 (227) 2637

Mail : [a-sekii@clg.niigata-u.ac.jp](mailto:a-sekii@clg.niigata-u.ac.jp)

HP : <http://www.clg.niigata-u.ac.jp/~n-nursing-care/>



Niigata Association of Nursing Care Research

# ニュースレター

第 6 号 別刷

平成 25 年 10 月 19 日（土）11 時 30 分より、新潟大学医学部保健学科 D41 講義室において、平成 25 年度新潟看護ケア研究学会総会が開催された。なお、総会の開催に先立ち、会員数名中 234 名（出席者；37 名）の出席者を得たことから、会則第 17 条 4 項に基づき会員の 10 分の 1 以上の出席があり、総会の成立を認められて議事が開かれた。総会では、平成 24 年度の事業内容および決算報告があり、賛成多数で承認された。次に平成 26 年度の事業計画案および予算案が審議された結果、下記に示した内容で賛成多数で承認された。

## 【報告事項】

### I 平成 24 年度事業報告

#### 1. 定例会議の開催

##### 1) 評議員会

平成 24 年 8 月 27 日（月）

評議員 11 名出席

##### 2) 学術集会・企画運営委員会

毎月 1 回開催

##### 3) 編集委員会

学術集会企画・運営委員会と合同開催

##### 4) その他

事務局会議（拡大）：2 回開催

#### 2. 学術集会・総会の開催

平成 24 年 10 月 20 日（土）

#### 3. 関係団体への後援依頼

##### 1) 後援

新潟県、新潟市、社団法人新潟県看護協会、  
新潟大学

##### 2) 賛助

財団法人 協和会

#### 4. 広報活動

ニュースレター第 5 号発行

学会用の HP 作成

<http://www.clg.niigata-u.ac.jp/~n-nursing-care/>

学術集会のページ

<http://www.clg.niigata-u.ac.jp/~n-nursing-care/shukai.html>

#### 5. 学会誌発行の準備

#### 6. その他

会員名簿の管理

（会員数 234 名：平成 25 年 10 月現在）

## 【審議事項】

### I. 平成 26 年度事業計画

#### 1. 定例会議の開催

1) 評議員会：年 1 回開催

2) 企画運営委員会：年 4 回開催

（状況に応じ対応）

3) 学術集会準備委員会：月 1 回開催

4) 編集委員会：月 1 回開催

（状況に応じ対応）

5) 事務局会議：月 1 回開催

#### 2. 第 6 回学術集会の開催

日程：平成 26 年 10 月 18 日（土）

場所：新潟大学医学部保健学科

テーマ：地域の力をケアに活かす

学術集会長：小林 恵子

（新潟大学大学院保健学研究科）

#### 3. 第 6 回総会の開催

日時：平成 26 年 10 月 18 日（土）

場所：新潟大学医学部保健学科

#### 4. 関係学術団体への後援依頼と連携

新潟県、新潟市、公益社団法人新潟県看護協会、  
新潟大学（その他、関係学術団体）

#### 5. 広報活動

ニュースレター 6 号の発行

HP の管理・運営

#### 6. 研修の開催

#### 7. 新潟看護ケア研究学会誌の発行

## 新潟看護ケア研究学会平成 24 年度決算書

## ・収入

|                                   | 予 算              | 決 算                | 差 異            | 内 訳   |
|-----------------------------------|------------------|--------------------|----------------|---|
| 1. 新潟看護ケア研究<br>学会 H24 年度学会費       | 780,000          | 552,000<br>(114 名) | △228,000       | 1) 一般会員：5,000 円×105 名=525,000<br>2) 院生：3,000 円×9 名=27,000   |
| 2. 新潟看護ケア研究<br>学会<br>第 4 回学術集会参加費 | 545,000          | 456,500<br>(287 名) | △88,500        | 1) 一般会員：3,000 円×79 名=237,000<br>2) 院生：2,000 円×7 名=14,000<br>3) 非会員：4,000 円×30 名=120,000<br>4) 学生：500 円×171 名=85,500 |
| 3. H23 年度繰越金                      | 500,000          | 1,784,919          | 1,284,919      |   |
| 4. 寄附金・雑収入                        | 90,000           | 99,000             | 9,000          | 協和会寄付、展示費   |
| <b>収入合計</b>                       | <b>1,915,000</b> | <b>2,892,419</b>   | <b>977,419</b> |   |

## ・支出

|                                   | 予 算              | 決 算              | 差 異            | 内 訳  |
|-----------------------------------|------------------|------------------|----------------|--|
| 1. 新潟看護ケア研究<br>学会<br>第 4 回学術集会参加費 | 790,000          | 889,692          | △99,692        | 1) 学会抄録集 63,000<br>2) 会場借用料・パネル借用費 95,720<br>3) 講師謝金等 163,100<br>4) 学会運営費等 567,872 |
| 2. 通信費・印刷費                        | 400,000          | 208,224          | 191,776        |  |
| 3. ニュースター発行費                      | 55,000           | 96,600           | △41,600        |  |
| 4. 事務諸経費・会議費                      | 320,000          | 118,434          | 201,566        |  |
| 5. 学会誌発行費                         | 250,000          | 43,880           | 206,120        |  |
| 6. 活動予備費                          | 100,000          | 48,000           | 52,000         |  |
| <b>支出合計</b>                       | <b>1,915,000</b> | <b>1,404,830</b> | <b>510,170</b> |  |

収支差額 1,487,589 円

H24 度繰越金 1,137,589 円  
 学会活動予備費 200,000 円  
 学術集会会場借用及び設営費積立金 150,000 円

## 新潟看護ケア研究学会平成 26 年度予算

|                         | 収 入              |                        | 支 出              |
|-------------------------|------------------|------------------------|------------------|
| <b>1. 新潟看護ケア研究学会費収入</b> | <b>480,000</b>   | <b>1. 第 4 回学術集会開催費</b> | <b>790,000</b>   |
| 1) 一般会員：5,000 円×90 人    | 450,000          | 1) 学会抄録集               | 100,000          |
| 2) 大学院生：3,000 円×10 人    | 30,000           | 2) 会場借用料・パネル借用費        | 180,000          |
| <b>2. 学会参加費収入</b>       | <b>480,000</b>   | 3) 学術集会運営費             | 100,000          |
| 1) 一般：3,000 円×100 人     | 300,000          | 4) 講師謝金等               | 410,000          |
| 2) 大学院生：2,000 円×10 人    | 20,000           | <b>2. 通信費・印刷費</b>      | <b>400,000</b>   |
| 3) 非会員：4,000 円×30 人     | 120,000          | <b>3. ニュースター発行費</b>    | <b>55,000</b>    |
| 4) 学生：800 円×50 人        | 40,000           | <b>4. 学会誌発刊費</b>       | <b>250,000</b>   |
| <b>3. 平成 25 年度繰越金</b>   | <b>500,000</b>   | <b>5. 事務諸経費・会議費</b>    | <b>320,000</b>   |
| 4. 学会活動予備費・会場積立金        | 350,000          | <b>6. 活動予備費</b>        | <b>100,000</b>   |
| 5. 寄附金・雑収入(広告費等)        | 90,000           |                        |                  |
| <b>収入合計</b>             | <b>1,900,000</b> | <b>支出合計</b>            | <b>1,900,000</b> |